

第2回学校運営部会 会議要旨

とき 令和元年10月31日(木)

ところ 北方中学校 校長室

※会議の主な内容は以下のとおり

副部会長：定刻になったので、第2回学校運営部会を開始する旨を告げる。

(16:00 開始)

部会長：開会にあたりあいさつを述べる。

事務局：協議にあたり、前回会議での内容確認。「北方科」に関する町の考え方を説明する。

部会長：北方学園全体の教育方針などについて検討内容を説明

○学年区分については白川郷学園を参考に4-2-3制を最初の案とした。

⇒他校事例では4-3-2制の方が多い。6年生から7年生への連結という面ではこの案のほうがよいのでは。

⇒4-2-3制なら今までの6-3制とあまり変わらない部分もある。そのため、導入時にはあまり違和感なくスタートできるのではないかと。また、北方学園以外の学校との関係性を考えると便利な面もあると思う。

⇒学年区分は4-3-2制か4-2-3制のいずれかがよいということで、どちらを採用するかについては継続審議とします。

○学園の特色として、英語教育に何か工夫ができませんか。

⇒現状のままでは、小学校の英語教育について学級担任への負担が重いと感じている。

⇒例えば、定期的に近隣大学の留学生を招いて、子どもたちと触れ合っていただくような事業はどうでしょうか。

⇒今後、英語科の先生にも意見を聞きながら具体的な案を練っていきたい。

吉田委員：「北方科」や総合学習のテーマなどについて検討内容を説明

○社会科副読本「マイタウン北方」の編集と「北方科」の検討方法について考えなくてはならない。

⇒マイタウン北方はあくまで副読本です。北方科を検討するということは新しい教科書を作るイメージが近いと思う。

⇒マイタウン北方は3年ごとに改定しており令和3年が改定時期になるが、北方科の検討と同時進行は難しい。内容の整合性も必要だが、マイタウン北方は大幅な改定をせず、数値の更新などにとどめるべきだと思う。

○義務教育学校9年間連動した教科内容を考えなくてはならない。

- ⇒総合学習のテーマは小学校3校でも多少違っている。まずはそのあたりのすり合わせと中学校のテーマとの関連性・連続性を検討していきたい。
- ⇒ほかの教科においても9年間の関連性をしっかり検討する必要がある。まずは9年間縦断の学習内容を作り、その後各教科の横断的な内容検討もしていく必要があると思う。

大塚委員：日程表案についてと各校の学校行事の現況について説明

- 他校事例を参考に日程表案を作ったが、短縮日程の時どうするか、南学園は体育館やプールが1つなので移動のタイミングを考えなくてはならないなどさらなる工夫が必要だ。
- ⇒教科担任制の実施のため、小学校45分、中学校50分の事業時間の違いがあるなかでの調整が必要です。具体的には休み時間などで調整して1, 3, 5時間目の開始時間を合わせるとかしないと先生が移動できない。
- ⇒朝の会の時間を短くして帰りの会を長くする、掃除の時間を短くして集中できるようにするなどいろんな考え方があると思う。
- 宿泊を伴う行事について、今だと小学校5年生と中学校1年生が同じファミリーパークに行っている。
- ⇒行事は総合的な学習とリンクして、その行事で何を学ぶのかということを精査する必要がある。たとえ同じ場所に行くとしても、学ぶ内容が違えば意味がある。
- ⇒中学校の行事は、北と南に分かれることにより1学年の人数が減るので、宿泊先の予約などにおいて融通が利くようになる。この点は実施時期などを検討する際にとってもありがたい点だと思う。

栗本委員：先進校である桑原学園の事例について説明

- 異学年の合同授業「教え学び愛科」についていろんな考え方や意見があった。
- ⇒「教え学び愛科」はいわゆる「教科」の時間なのか、総合的な学習に位置づけられるのか、やや曖昧な部分があると思う。
- ⇒上級生の情操教育という面は効果があると思うが、「教科」としては下級生は上級生から「学ぶ」ことができるが、上級生は下級生から「学ぶ」ことはできない。
- ⇒義務教育学校の制度において、上級生が下級生と密接に関わることでとても落ちついた学校生活を送れるようになった、という効果はどの先進校でも出ている。「教科」としての考え方は別にして、この点は大切にしなければならないと思う。
- ⇒必ずしも「教科」における異学年交流に拘らなくてもよいのでは。たてわり活動や交流事業を中心に検討してはどうか。

副部長：2回目の協議は以上とする。今回の協議を受け、各委員それぞれの研究を進めることとする。次回の部会は1月中旬とし、改めて日程調整することとする。

(17:45 終了)